

目的：最近、住宅供給会社から〈クローゼット〉や〈ウォークイン・クローゼット〉といった衣類中心の収納専用スペースをセールスポイントにした住宅が売り出されているのが注目される。これらの収納専用スペースは、呼称が異なるように大きさや設置状況はさまざまである。本研究は、こうしたスペースをもつ住宅の居住者を対象にケーススタディを行い、その使用実態等を分析することにより、〈ウォークイン・クローゼット〉という新しいかたちの収納が、衣類の収納スペースとしてどのような役割を果たしているのかについて考察することを目的としている。本報ではウォークイン・クローゼットの概念を検討し、それらの設置状況と使用実態の特徴を明らかにする。

方法：1986年7月、奈良市郊外にあるM、T団地の建売住宅のうち2～3畳程度の収納専用スペースをもつ42件を対象にアンケートおよび面接調査を実施し、22件の有効回答を得た。

結果：ウォークイン・クローゼットの設置状況は、1戸当たり1.2カ所、広さは1.5～4畳まで平均2.2畳、大半が2階の居室に接続している。内部には棚、ハンガーパイプ、戸棚などが設けられているケースが多い。ウォークイン・クローゼットの使用実態については①衣類では、ウォークイン・クローゼットと接続している部屋の使用者自身の洋服や衣料雑貨が中心にしまわれているが、和服や履物類はほとんど収納されていない。衣類以外のものでは他の家族の持ち物（スーツケース、寝具、本等）も多く収納されている。②比較的広いスペースでは着替えも行われ、化粧室的な使われ方がみられる。③ハンガーパイプや棚を利用した「露出型収納」も多く、また使用季節の衣類が中心に収納されている。④少数ではあるが、季節による衣類の入れ替えを行わず、季節外の洋服の場合も「露出型」あるいは「一部露出型」で収納しているケースがみられた。